

## 設立趣旨書

ボランティアグループ手をつなごは1997年9月、東京都練馬区の関町地区を中心に、子育て中の若い母親達を支援することを目的に、中高年の主婦を中心として作られたグループである。女性の社会進出に伴い、一時は「ポストの数ほど保育所を」のかけ声の下、未だに不足と言われるものの、保育所の数は急速に増えた。男女雇用均等法の施行により、女性の社会進出の機会は一層増え、負担の重い性別役割分業を余儀なくされ、既婚の有職女性にとって、仕事と育児・家事の両立はさらに厳しいものになった。核家族化の加速も加わって、産休あけ保育、長時間保育等保育行政はかなりの進展をみせた。児童福祉の施策が果たして真の子どもの幸せになっていたかどうか一考するところでもある。その一方、行政の在宅育児への施策は進んでいたのだろうか。後手に回っていなかったかと言いたい。少子化や、又、多くの悲惨な子どもの問題が噴出してきた今、やっと、在宅の子育て支援も視野に入るようになってきたかとほっとしているところである、が、まだまだである。素晴らしいはずの子育て自体が苦しみとなる・母子が孤立した毎日を送っている・公園デビューができない・育児書通りに行かない・夫の協力が得られない・友達がいない等々。楽しい子育てにしていくなための解決策の一つに、私たち中高年は昔の近所のおばさんをしようと決めた。1ヶ月の準備期間の後、10月14日から、月2回（第2・第4火曜日）遊び場（親子のつどいの広場）を提供してきた。5年目、今年度中に100回目の開催を迎える。参加の母親達からは、回数が少ない、もっと広い場所が欲しい、ちょっとの時間預かって欲しいなどの多くの声がある。今では、保健所や児童相談所・民生委員児童委員等からも協力要請があり、できるだけ、受け入れてきている。応じきれない数多くのニーズに応えるため、地域の子どもの問題に取り組むためにはボランティアグループ手をつなごを特定非営利活動法人手をつなごにする必要がある。現在の任意団体では社会的信用度も薄く、開催の場を中学校に求めても、相手にされない現状である。練馬区行政のサポートを進めるためにも、信頼を得るためにもNPO法人化が必要である。長寿社会文化協会のモデル事業として、「親子のひろば事業」を多くの人たちに普及するため、研修会での事例発表も各地で行ってきた。新聞・雑誌・テレビやラジオなどでも取り上げられ、地方からの見学者・地方行政からの見学者も、毎回と言っていいほど来る。任意団体としては限界であり、次代につなげるため、地域住民参加の下、若いスタッフの育成をもはかっていきたい。三世代交流の場としても活性化させ、高齢者の生きがい作りの場として、高齢者の知恵や文化を若い人たちへ伝承させていく場としても機能させ、高齢者や子ども達、弱者にやさしい街にすべく、地域福祉に貢献していきたい。

平成13年11月26日

特定非営利活動法人の名称 特定非営利活動法人手をつなご

代表者 住所又は居所（省略）

氏名 千葉勝恵